

たてくるジオパーク だより 第42号



発行：立山黒部ジオパーク協会 事務局

〒930-0856 富山市牛島新町5-5 タワー111ビル1階

TEL: 076-431-2089

FAX: 076-482-3204

MAIL: info@tatekuro.jp HP: https://tatekuro.jp/

f https://facebook.com/tatekuro

第11回日本ジオパーク全国大会より



10月3日～5日に島根半島・宍道湖中海ジオパークにおいて全国大会が現地参加とオンラインを組み合わせたハイブリッドで開催され、盛況のうちに幕を閉じました。

全国のジオパークからたくさんの参加者があり、それぞれ特色ある地形や地質、歴史・文化・人々とのつながりに関わる活動が紹介されました。島根の住民の方々も、各ジオパークの特色や面白さを知って頂けたのではないかと思います。

また大会開会式の場で、日本ジオパーク協会から立山黒部ジオパークが表彰を受けました。これは昨年協会で出版した「歩いて手繰る立山黒部ジオパーク見聞録」に関して、一般に広く「地域の宝」をPRするのに貢献した事、民間主導でスピード感をもって活動を進めている事が高く評価されたものです。この受賞を励みとして、より一層地域の方々と活動を進めていきます。これからもご協力とご支援をいただくと幸いです。



<オンラインでの表彰式>

すべてのオンラインプログラムは、12月31日まで大会ホームページで閲覧できますので、ぜひご覧ください。

https://kunibiki-geopark.jp/alljapan_geo-tokusetsupage/

また、大会ホームページの中部ブロックのポスター展示では、中部ブロックのポスターを見てクイズに答えると、各ジオパークの名産品がもらえる、クイズラリーを開催中です。たくさんのご参加をお待ちしています。

中部ブロックのポスター展示 ⇒ https://kunibiki-geopark.jp/alljapan_geo-izumo/

クイズラリーはここからお入りください。⇒



また、ポスターセッションのポスターや動画は以下のアドレスからご覧いただくことができます。

https://kunibiki-geopark.jp/alljapan_geo-postersession/poster_list04/

中部ブロックのポスター展示やポスターセッションでは、地域のネットワークを広げながら活動を進める立山黒部ジオパークの様子を紹介しています。

今後も、立山黒部ジオパーク写真展、新規ジオガイド養成講座の開催などを予定しています。順次お知らせしていきます。

ジオパークってなに? っていう人へのアプローチについて

成川正幸・川端志穂、伊関健太、王生浩、山岡勇太、山瀬裕子、今垣慧一 (一般社団法人立山黒部ジオパーク協会)

はじめに
立山黒部ジオパークは、自然環境と文化遺産が調和して存在する貴重な地域です。地元の人々にとっても、観光客にとっても、大きな魅力があります。この魅力を広く伝えるためには、様々なアプローチが必要です。本記事では、ジオパークの魅力を効果的に伝えるための様々な取り組みを紹介しています。

① 書籍『歩いて手繰る立山黒部ジオパーク見聞録』
立山黒部ジオパークの魅力を伝えるための重要なツールとして、協会では『歩いて手繰る立山黒部ジオパーク見聞録』を出版しました。この書籍は、立山黒部ジオパークの自然環境、文化遺産、そして人々の生活とつながる姿を詳しく紹介しています。また、歩いて手繰るジオパークの魅力についても詳しく解説しています。この書籍は、観光客だけでなく、地元の人々にも大変人気があります。ぜひ手に取り、立山黒部ジオパークの魅力を味わってください。

② 2020年10月1日発行
立山黒部ジオパーク見聞録
著者：成川正幸、川端志穂、伊関健太、王生浩、山岡勇太、山瀬裕子、今垣慧一
発行：立山黒部ジオパーク協会

学校教育への参加 —ジオガイドと学習支援—

10月になりコロナも少し落ち着いたところで、滑川市、上市町、富山市のふるさと学習に出かけてきました。ジオパークには、理科や社会、総合的な学習の時間に学ぶ事ができる素材がたくさんあります。特に5・6年生の理科の授業においては、学校指導要領に基づきながら地域素材を生かした学習が効果的だと感じています。今回は、ジオガイドとして活躍されている方々に声をかけ学習支援員として加わっていただきました。その様子もお知らせします。

上市町 6年ふるさと学習

上市町では、1年生から6年生までそれぞれの発達段階に応じてふるさと学習に取り組んでいます。ジオパークでは、特に6年生の「大地のつくり」に関わってきました。3年前までは校外での露頭の観察が中心でしたが、ここ2年間は上市町の地層の特徴と、その地層から分かることを学習しています。

今年は新たに上市町で見つかった稲村の大きな露頭と他の2か所の露頭の様子を比べることで、富山県全体の地層のつながりを学習することができました。また、一人一人が家から持ち寄った土や砂を用いた地層づくりや貝化石の観察ではガイドさんの細やかなアドバイスや解説を受け、理解を深めることができました。子どもたちからは、「上市にこんな化石があるとは知らなかった。今度は露頭をよく観察してみたい」という感想が聞かれました。



<タブレットを使って、自分と友達の地層を比べる>



富山市広田小学校 5・6年

広田小学校では6年生が広田地区の地形やその特徴を知ることによって災害の可能性と防災マップについて考えました。洪水に対するリスクは少ないものの、すぐ近くに呉羽山があり活断層で呉羽山ができたことや将来的に地震の可能性があると驚いていました。

5年生は、昨年4年生の社会科や総合的な学習の時間に常願寺川の災害について学んでいたため、今年度は理科で常願寺川の災害から守る工夫を考えようと、砂場で川の実験を行いました。



グループごとに常願寺川の流れをつくり、どこが決壊していくのかを確かめます。浸食・運搬・体積の働きを

実感しながら、洪水を起こさないようにと、堤防を作ったり川筋を変えたりと試行錯誤して、相談・協力しながら取り組んでいました。

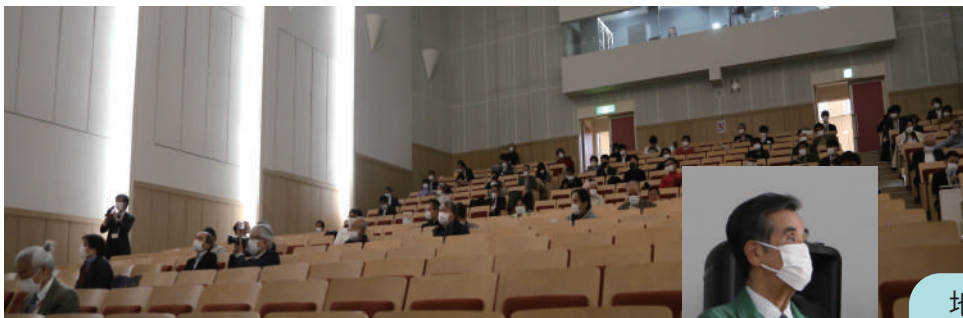
これからもジオの要素を効果的に取り入れながらガイドさん方と充実した学習支援に取り組んでいきます。

開催事業のお知らせ

日本活断層学会 2021 年度秋季学術大会 シンポジウム開催

10月22日～23日まで富山大学五福キャンパス黒田講堂で日本活断層学会が開催されました。昨年はコロナ禍でオンライン開催となった学会でしたが、今年は再び富山での現地開催となりたくさんの研究者による熱心な協議が行われました。23日のシンポジウムでは「北陸の活断層と地震防災」をテーマに6人の講師が登壇されました。

富山からは、富山県防災士会の小杉邦夫さんが「防災士会の活動と地域防災の重要性」について、また、ジオパーク協会学術顧問の竹内章先生が、「北陸と周辺海域の地震地帯構造」について講演をされました。北陸地方にはたくさんの活断層があること、また何度も地震を引き起こしていることを改めて知ることができました。



また、富山は地震の空白地帯であること、予知できない災害であるからこそ情報を敏感にキャッチし、災害に備えておくことの必要性を強く感じました。

お忙しい中、参加していただいた会員の皆さま、ありがとうございました。

地域を守ることは、まず地域のリスクを知ること。地域に合った防災の仕組みづくりが大切です。(小杉防災士)



立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK



11月16日(火) 第5回ガイドスキルアップ講座について

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、延期いたしましたジオガイドのスキルアップ研修講座を、11月16日(火)に開催する予定としています。今回の研修講座はリレー講演会形式で開催いたしますので、ジオガイドだけでなく会員の方も、ぜひご参加ください。

＜講師＞富山大学名誉教授 梶座 圭太郎先生

＜演題＞「大陸進化論化から見た日本列島と飛騨変成帯の発達史」

＜場所＞魚津埋没林博物館 研修室

＜時間＞13時30分～16時

＜参加費＞無料

＜定員＞30名（申し込み先着順）

※興味のある方は、協会までご連絡ください。受講前に最近の地球科学の入門書を読んでおくことをお勧めします。「富山のジオロジー」も参考にされると良いと思います。

「立山黒部ジオパーク ESD ダイアログ」配信のお知らせ

11月13日(土)～14日(日)に、自然資本を活かした人づくり・地域づくり立山黒部ジオパーク ESD ダイアログ2021が開催されます。ESDは「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」です。1日目には、自然資本とは何か、中部地方のジオパークによる ESD 活用事例の紹介、自然資本の ESD 活用についてなど、ダイアログ＜対話・会話＞を通して考えていきます。YouTube でライブ配信され環境省 EPO 中部のホームページからご覧になることができます。詳しいことはホームページをご覧ください。 <https://www.epo-chubu.jp/epo-news/13179.html>

立山黒部ジオパークの事例紹介が、滑川市教育委員会伊東眞教育長により「なめりかわのジオパーク ～大地・川・海 歴史がおりなす自然と文化～」と題して発表される予定です。

立山カルデラ砂防博物館フィールドウォッチング 2021



立山カルデラ砂防博物館学芸員と行く⑧

『立山の雪を体験しよう』

不思議な雪の世界を実験を通して楽しく学びます♪「かんじき」を履いて真っ白な雪原へ！雪に残る動物の足跡を探してみましょ。去年はウサギやカモシカの足跡にその生態を垣間見ることができました。とってもおいしい「ホテル森の風立山」の特別ランチもお楽しみいただけます♪

詳細とお申し込みは、以下のアドレスからご覧ください。

<https://hokuriku-tour.com/archives/tour/tg008>

秋のジオパーク散歩「地形と常西用水の成り立ちや治水の歴史」を巡る

上滝地域でジオ散歩を行いました。常願寺川右岸を散策しながら、常西用水の成り立ちや治水の歴史を学びました。常西合口用水はオランダ人技師デ・レーケの提唱により12の常西用水の取り入れ口を1つにまとめ、合同取水口を設置することにより取水の安定化を図ったものです。昨年12月に「世界かんがい施設遺産」として富山県で初めて登録されました。

参加者の方からは「常西用水や佐々堤は名前だけ聞いていて車で通りすぎるだけだったが、ゆっくり歩き詳しい説明が聴けて良かった。水制をなまで見、実感できた」という感想が寄せられました。

今年はコロナ禍で3回の実施でしたが、来年は例年のように実施していく予定です。

たくさんの方の参加をお待ちしています。



立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK



蓑輪の福平層の露頭 — 1600 万年前の海底を歩く —

多くの化石が見つかる地層

滑川市の蓑輪地区には、福平層と呼ばれる地層が分布しています。福平層は、今からおよそ 1600 万年前に海でたまった砂や火山灰でできています。地層中からは、当時の日本海に生きていた貝やサメの歯の化石が見つかっています。中でも重要なのは、暖かい水温を好むイモガイの仲間や、ホタテガイの仲間が数多く見つかっている点です。これらの貝類は、現在の富山湾では見ることはできません。このような化石から、当時の富山には熱帯～亜熱帯の温かい海が広がっていたと考えられています。

福平層からは、このほかにも絶滅した巨大ザメ「メガロドン」の歯の化石や、哺乳類「デスモスチルス」の歯の化石も見つかっており、当時の富山の生物環境を知る上でたいへん重要な地層となっています。

このように地層から見つかる化石は、はるか昔の状況を今に伝える貴重な情報源となるのです。

デスモスチルスの歯の化石



メガロドンの歯の化石



☆蓑輪の地層から発見された「デスモスチルスの歯の化石」と「メガロドンの歯の化石」は滑川市立博物館所蔵で、画像も同館から提供を受けたものです。

協会会員企業の紹介

立山黒部ジオパーク協会の会員企業を、五十音順（昇順、降順）でご紹介していきます。



金森産業株式会社

人と技術をつなぐパートナー

金森産業株式会社は多岐にわたる工業材料の商社として、日本のものづくり産業を支えています。

【創業年】1870年（設立1950年）

〒933-8558高岡昭和町1-4-1

TEL0766-25-0123

<https://www.kanamorisangyo.co.jp>



小水力発電で地域にチカラを



総合建設業

株式会社

深松組

専務取締役北陸支店長 深松 隆

北 陸 支 店 〒939-0742 富山県下新川郡朝日町沼保江上1223-1
TEL (0765) 83-1180

ジオパークの拠点施設、協力施設などが再開され、街中にも人波が戻ってきました。称名滝駐車場の横にある称名平休憩所・称名滝展示館が新しくなり、立山黒部ジオパークもジオパークの魅力伝えるべく、新しいパネルを展示しました。右側のパネルは、剣岳を裏側から撮影したもので、山越しに富山湾が見える迫力あるポスターになっています。

ガイドさんも専門員も学校へ出かけたり、ツアーで出かけたりすることが増え、楽しそうに活動する子どもたちや住民の方々とお話をすると、柔らかな開放感が感じられます。ジオに興味をもって参加される方と触れ合う機会が増えるように、部会で相談して新しい企画にチャレンジしていきます。

11月から1か月間、富山きときと空港でもジオパークの展示が行われます。観光客の皆さんに、富山の魅力が伝わるといいなと思います。



立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK

